

令和2年度第3回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：令和3年3月23日（火） 午前10時～11時30分
場 所：秋田市役所本庁舎5階 第3、4委員会室
委員の定数：13人
出席委員：10人

1 開会

2 議事

(1) 令和2年度事業報告および令和3年度の取組について

資料1をもとに、事務局から説明を行った。

副委員長	議事の(1)「令和2年度事業報告および令和3年度の取組について」に関して、ご意見やご質問等はないか。
委員	2ページの課題と対応の中の「シニア向けの情報ポータルサイト」の運営について、来年度からの具体的な提案になるが、例えば「プラツと！」応援隊の募集をしてはどうか。高齢者でもFacebookやブログなどで発信している人はいる。書きたい、発信したい方を力を借りながら、ページの使い方やオンラインの説明会なども提案したいと思う。 4ページの映画の上映について、これはいつも満席ぐらいか。
事務局	はい、その通りです。
委員	コインバス資格証明書を持っている方から、もう少し助けられないかと。バスをもっと利用していただき、高齢者が自宅にこもらず、より多くの方が参加できればいいと思った。 最後に、5ページの「暮らしに役立つサービス」の冊子の発行だが、2万部というのは、残ったりせず、概ね配布できる数か。
事務局	前年度はコロナウイルス感染拡大などの影響で、例年では町内会などにまとまった数を渡すことがあるが、集まるのが難しい状況でなかなか配布できなかった。しかし、今年度分は、町内会で高齢の方に渡したい、病院で配布したいなど好評で、配布が進んでいる。
委員	私の勤務先に出入りする方に、50冊、100冊あれば、いろいろな情報が掲載された良い冊子だと思うので、様々な機会に配布できればと思う。
委員	「令和3年度の取組について」の新規「秋田市エイジフレンドリーパートナーの表彰」は、さらに多くの企業に参加していただくモチベーションになり非常に結構なことだと思う。具体的に、企業の高齢化率についてか、それとも高齢者への仕事やワークショップ等の配慮がふさわしい企業を表彰し、目標にして欲しいという捉え方でよいか。

事務局 エイジフレンドリーパートナーは、認知症サポーター養成講座を受講し認知症の方に接する際に役立てる、高齢者を多く採用するなど、高齢者にやさしい取組を行っていただいている。そういった取組や、他の企業は行っていないような取組を含めて、毎年度の報告書に記載いただき、それを元に表彰するパートナーを選定したいと考えている。

事務局 補足するが、数多くのパートナー企業が高齢者雇用、認知症サポーター養成講座の受講を行っている。中でもちょっとした工夫など他にも同様にやっていただけるとよい取組や、地域と連携した取組など、模範になる取組、広げていただきたい取組を表彰したいと思っている。

委員 表彰数は、年に何件などと想定しているのか。または、必ずしも毎年行うものではなく、例えば年に2ないし3社と絞っているのか。

事務局 今のところ、数社を見込んでいる。

委員 パートナー数が増え、似た取組内容で、一方は表彰されたがもう一方は表彰されないなど、そういったことはないか。考えすぎかもしれないが、パートナー側からすると不満に思うのではないか。そういう意味では、あまり大量にとというのもモチベーションの向上には繋がらないと思うが、数を絞るということをせず、表彰する初年度に関しては、あまり杓子定規にならない方が良いのではないか。少し融通を利かせて、今までも含めて選定するとよいと思う。

委員 活動に参加できる方は、自分である程度移動できる方である。年を重ねると年々衰えて、どこに行くにも足がないということが、障害になってくる。そのことについて、どのように考えているのか。

事務局 確認だが、エイジフレンドリーシティの取組の中でということか。

委員 はい。

事務局 エイジフレンドリーシティの取組の中でも、高齢になって自分で運転ができなくなり、移動手段がないということは、課題として出てきている。地域、行政も含めて、何らかの取組ができることが、エイジフレンドリーシティの実現に向かうことになると考えている。

委員 私は身体障害者協会の仕事をしており、会のほとんどが高齢者である。同じ事務局内の老人クラブ連合会、母子寡婦福祉連合会も同様で行事を計画しても、足がないため出られず、参加者の減少が深刻な問題。市全体の問題かもしれないが、高齢社会の移動手段をどうするか。身体障害者協会行事も、雄和、河辺の方々はほとんど参加できない。迎えがあれば行動できる方もいるが、秋田市には福祉バスがなく、社協の10人乗りバスを借り、運転手を頼んでいる。乗車できる数が少ないため参加者が限定される。こういうことはどう考えているのか。

事務局 エイジフレンドリーシティの取組の中で、地域でワークショップを行っているが、移動手段については課題として必ず上がってくる。具

	体的にこうすればいいということは組み立てられていないのが現状だが、行政としても課題として考えており、各地域でもそう捉えている。どういった方法があるのか、今後検討していかなければならないと思っている。
委 員	福祉バスは30人や60人など大型を考えるが、20人程度のものもあるらしい。あまり大きくない、15～20人程度のバスを2～3台活用できれば、秋田市でも非常に活発に動けるのではないかと。市、行政の方に対応してもらえそうな働きかけも必要じゃないかと思う。
事 務 局	エイジフレンドリーシティ推進の立場からも、機会を見つけてこういう意見が出ていると話していきたい。市としても、そのことは課題という認識があり、総合計画等においても、市民の足について検討していると認識しており、今後検討が必要な大事なことだと思っている。
委 員	例えば、秋田市バリアフリー審議会などでも、こういう問題が出てくる。そういうことを考えると、本委員会だけでなく、他の審議会とも協力し、市の方へお願いする方法も効率的ではないかと感じる。
副 委 員 長	公共交通の委員の立場として、高齢者の、特にバス停まで歩けない等に対し具体的にどうするかはなかなか難しいところだが、問題意識としてはある。そういう意味ではエイジフレンドリーシティという言葉があり、当然福祉関係ではなくて、他の部署でも同様に考える傾向に徐々になってきていると思う。本委員会でのこのような意見があったことを公共交通の委員の方で、機会があれば発言させていただきたい。
委 員	2ページのエイジフレンドリーパートナーづくり推進事業で、研修会の参加23名は(1)の登録事業者数からすると多いのか少ないのか。
事 務 局	本市でコロナウイルス感染拡大の傾向がみられ、研修会は定員40名で募集したが、自社以外で開催する会議、研修会への参加を自粛していた事業者もあったため、なかなか参加者が増えなかった。
委 員	前年度はもう少し多かったのか。
事 務 局	はい、その通りです。
委 員	高齢者にやさしいまちづくりというと安全安心が全面に出てくるが、この事業はさらに豊かさを持ってもらうことに繋がっていく事業と思う。研修会を通して、もっと高齢者へ豊かさを感じてもらえるところに結びつけられると思うので、積極的に推進していただければと思う。
事 務 局	ありがとうございます。
副 委 員 長	他になければ、議事(1)を終了する。

(2) エイジフレンドリーシティ推進戦略～西部地区編～について

資料2をもとに、事務局から説明を行った。

副 委 員 長	議事の(2)「エイジフレンドリーシティ推進戦略～西部地区編～について」に関して、ご意見やご質問等はないか。
---------	---

委員	地域活動への参加、地域での居場所が問題として出てくるが、共通話題があれば参加しやすい。共有するものがあると参加に積極的になり、話も弾んで人の繋がりもでき、行事も活発になる。ワークショップで出た課題で、気軽に集まれる場所がないとあったが、そのことに対するアイデアで、スーパーで食べながらお話しできる場所というのは、凄くよいと思う。このような場所は必要で、そういうところから地域活動、行事などが活発になると期待できるのではないかと感じた。
事務局	戦略づくりワークショップでは、中央、西部地区のいずれも「居場所」のキーワードが出ている。西部のサービスセンターにいろいろなサークルや場所もあるが入りづらい、行きたいが足がない、家族の介護があり参加できないなどもあった。ワークショップは参加者に自分事として地域の課題を考えてもらうことも目的の一つだが、参加により地域活動等のメンバーに入る、ワークショップがきっかけで新たに何かが始まることも目的で、中央地区で檜山にサロンが立ち上がった例もある。自分がやりたいことでないと続かず、補助ありきでも長く続かない。身近な場所で、自分達が負担にならない程度でいくつも始まると、最終的にエイジフレンドリーシティの実現にも繋がると感じた。
委員	私も実感しており、その通りだと思う。年を重ねると、誰かが先に立ってくれないと動けない、動かないという人が多い。老人福祉センターにお風呂があり、来た方がロビーで談笑している。話し相手がいることが大切で重要なことだと凄く分かる。趣味やスポーツはできるうちはいいが、年を重ねるとなかなか思うようにいかない。無理なくできる、そのような方法が何とか実現できれば、進められればと思う。
事務局	本市高齢者生活支援体制整備事業で、地域で包括支援センターの協議体ごとに何かやれることがないか、どんな課題があるか話し合う場を設けている。そういうところから少しずつ広がるのではと期待する。
委員	皆様からのさまざまな意見の中で、集まれる場所や交通手段という話が出ている。エイジフレンドリーシティの取組自体は、交通、生活、福祉全てを網羅する分野。パートナー研修会など、企業の皆さんが集まる機会に、高齢者の交通手段の問題や集まれる場所の課題を出すと、新たな視点から解決策が見つかるのではないか。「プラット！」というプラットフォームができ、参加する高齢者予備軍の人たちが新たなアイデアを出してくれることも考えられる。知恵を出さなければ先に進んでいかない時代になってきた。本委員会で問題を出して、それを様々な場面で広げ、解決策の意見を出していただくとよいと思う。来年度は行動計画を策定する時期であり、前半開催の本委員会で、様々な意見を市の取組として形に残すことができると思うので建設的に進めていければと思う。
委員	昨年、エイジフレンドリーシティカレッジの講演を聴いた。講師の

若宮さんは、デジタルが高齢者にとって今後絶対に大きな武器、味方になると強調していた。私自身はアナログ人間だが技術革新は進んでおり、今は面倒くさいところもあるが改良され、手書き入力、音声入力、今度はバーチャルなど、シニアが使いやすいデジタル技術が多く出て、この数年で大きくコミュニケーションのあり方が変わると思う。今デジタルを使って新たなコミュニケーションがシニアの中で生まれるとコロナ禍の中で改めて考えた。人間は情報がなければ行動の起点にならない。たくさんの情報を得るためにデジタルはものすごい武器。秋田市は日本で初めて「エイジフレンドリーシティ」に名乗りを上げた都市だが、新しいシニアの生き方、デジタルアクティブシニアへのフォローやサポートも今後、核として持っていただければと思った。

事務局 高齢者への情報提供という趣旨で「プラッと！」を開設しており、他のサイトに比べて見やすく、サイト自体入りやすいと思う。投稿できるコンテンツは、順番に入力すると投稿できる仕組みのため、無理なく投稿しやすいと考えている。株式会社ALL-Aでも、スマホ教室とは別に「プラッと！」の閲覧の仕方や活用法の教室を検討していると聞いており、チャレンジしてくれる高齢者が増えるとういと思う。

委員 報告書はよくまとめられ建設的な意見も多かった。具体的にどう形にしていくか、関わったメンバーの力を引き続き生かしていただきたい。サロンが欲しいがやる人がいない時、市は協力や方法の情報を出して進めていただきたい。スマホの使い方も高齢者は興味があり、買ったが使えないという人も多い。「アシスタ」の大学生、若者の力を借りたり、大学の地域貢献セクションや学生ボランティアグループと進めていければと思う。地域の安心安全や防災の活動団体、自主災害組織から、他団体とzoomで意見交換する際、コミュニティセンターにフリーWi-Fiがなく、相談を受けた。安心安全や高齢者の豊かさにも関わるので、Wi-Fi化を進めていただけたらと思う。意見を伝えていただき、全市的なエイジフレンドリー化を進めていただければと思う。

事務局 ご意見ありがとうございます。情報提供、連携できるよう努力する。

委員 先ほどの委員のご意見に全く賛成する。第3次行動計画は、エイジフレンドリーの趣旨からすると、期間内の目標とする計数が見えづらい計画になると思うが、アンケートの市民の意見を第3次行動計画で広げて前向きな検討をしていただきたい。また、先の委員のお話も、自分もアナログ時代を過ごしてきたので全くその通り。「暮らしに役立つサービス2021」で最初に目についたのが「パソコン・スマートフォン・インターネットなどに困ったら」だった。私も始めなければと感じており、今日見て参考になった。こういう情報は、非常に有り難い。

事務局 ご意見ありがとうございます。アンケート結果は、第2次計画の推進により、エイジフレンドリーシティの実現に向けてどの程度進み、

今後の課題を把握できるものの一つ。第3次策定の参考にしたい。

高齢者の方々に「プラット！」にも興味を持っていただきたいため、若宮さんを講師に迎えた。参加者は高齢者の割合が高く、感動した、元気をもらえた等とても好評だった。高齢者がインターネットから情報を得たりzoomができるようになれば、「居場所」に行くだけでなく在宅で人と会話ができることにも繋がっていけばよいと思っている。

委員 推進戦略は東西南北の全地区で実施したのですか。

事務局 4か所の予定が、今のところ中央と西部地区のみ実施となっている。

委員 西部地区編参加者の構成を見て、非常に若い方から年配の方、様々な職業の方が参加され、幅広い意見がある。21ページの「6さいごに」で、そういう方々の意見を参考に、現実可能なもの、さらにいいアイデアが出てくると思う。そのような意見を参考に、次の計画へと繋げる、参加者の意見を生かしていくということに繋がるのではないかと思う。非常に中身のある集約になっていると感心している。

事務局 ご意見ありがとうございます。

副委員長 他になければ、議事(2)を終了する。

(3) その他

副委員長 委員から何かあるか。

委員 秋田ではコロナの感染者数も少なく、1年間皆さん自粛されて、延期や中止など様々なことが進まなかったと思う。今後の予定で、ワークショップは北部、東部地区とあったが、本委員会の年4回についても、予定どおり遂行いただければ、スムーズに進むと思う。令和3年度は4年度からの行動計画を策定する予定なので、市が目指す方向が正しいのか、ワークショップで課題として出てくると思うが、随時目標と指標と対応させて先に進むことにより、この行動計画が市民の皆さんのためにもなると思うので、是非実現させていただきたい。

副委員長 他にないようなので、事務局からその他として何かないか。

事務局 事務局から以下の事務連絡を行った。

- ・「プラット！」への投稿について
- ・次回の推進委員会の開催時期について

4 閉会